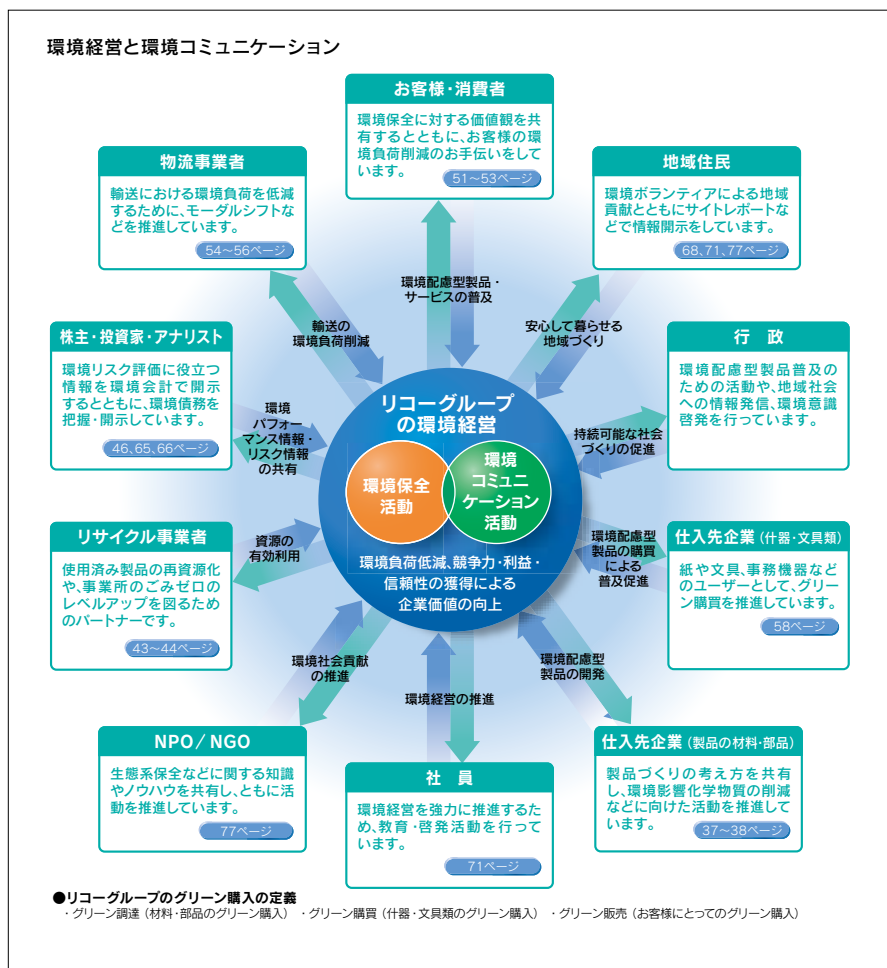


### すべてのステークホルダーと真摯な姿勢で コミュニケーションを図り、環境経営の環を拡げていきます。

社会から成長と発展を望まれる企業であるためには、実際に環境保全活動を推進すると同時に、考え方や活動内容を多くの方々に知っていただき、社会からの信頼を得ることが重要です。また、活動事例を積極的に社内外に情報発信することは、さらに活動を促進し、持続可能な社会づくりにも貢献することになります。リコーグループは、環境コミュニケーションと環境保全活動は環境経営の両輪であるという考えのもと、真摯な姿勢でのコミュニケーションを通して環境保全活動の環を拡げていきます。



## ステークホルダーコミュニケーション

### Japan-CLPに参加

#### 《リコー／日本》

2009年7月30日、リコーは、「日本気候リーダーズ・パートナーシップ(Japan-CLP)」の設立メンバー企業として参加を表明しました。Japan-CLPは、気候変動問題に対して、産業界が健全な危機感をもって積極的な行動を開始すべきであるという認識に立って結成された日本初の企業グループで、政策立案者、産業界、市民などとの対話の場を設け、アジアを中心に活動を展開していきます。メンバー企業は、持続可能な低炭素社会実現のための共通のビジョンのもとに自らのコミットメントを掲げ、意識改革、制度構築、技術開発の3つのアプローチを進めていきます。リコーは、今後、自ら掲げる中長期環境負荷削減目標の達成に向けた活動を強化するとともに、Japan-CLPメンバー企業との共通のビジョン実現のため、環境技術開発等を中心に協力していきます。

※1 Japan-CLPホームページ <http://japan-clp.jp/index.html>

※2 ニュースリリース「リコー、Japan-CLPに参加」

[http://www.ricoh.co.jp/release/by\\_field/environment/2009/0730.html](http://www.ricoh.co.jp/release/by_field/environment/2009/0730.html)

### 展示会への出展

#### 《リコー／日本》

2010年12月、東京ビッグサイトで開催された環境総合展示会「エコプロダクツ2010」に出展しました。今回の参加団体は745社、延べ約18万3,000人が来場しました。リコーブースでは「ものづくりの環境負荷削減」「オフィスの環境負荷削減」「生物多様性保全活動」のコーナーを設け、独自の技術や取り組みを展示。中でも、「次世代生産用水処理技術」、「新カラーQSU技術」、「レベルカラー印刷技術」「台車生産ライン」などが注目を集めました。



## 環境をテーマにしたCMの制作

### 《リコー/日本》

リコーはコミュニケーションツールを通して社会全体の環境負荷削減に貢献したいと考えています。2010年度は実践活動の地球にやさしい“ひと工夫”を紹介する「エコバナシ」シリーズCMを放映しました。このCMシリーズが第14回環境コミュニケーション大賞（主催：環境省、(財)地球・人間環境フォーラム）のテレビ・CM部門で優秀賞を受賞。また、シリーズ中の「文具 姿置き編」が、第50回消費者のためになった広告コンクール（主催：(社)日本アドバタイザーズ協会）\*で銅賞を獲得しました。

\* 詳しくは[http://www.jaa.or.jp/about\\_01.html](http://www.jaa.or.jp/about_01.html)をご覧ください。



※ 動画はこちらをご覧ください。

<http://www.ricoh.co.jp/no1/ecobanashi/movie1.html>

## 環境経営報告書の発行

### 《リコーグループ/グローバル》

リコーグループは、1996年度の情報を開示した環境報告書を1998年4月に発行して以来、毎年報告書を発行しています。2004年度からは、サステナビリティレポートとして、環境経営報告書、社会的責任経営報告書、アニュアル・レポート、会社案内の4つの報告書を6月に発行しています\*。この「サステナビリティレポート2010」が、第14回環境コミュニケーション大賞（主催：環境省、(財)地球・人間環境フォーラム）で優秀賞を、「リコーグループ環境経営報告書2010」が第14回環境報告書賞（主催：東洋経済新報社、グリーンリポーターズ・フォーラム）で「環境報告書賞：優良賞」を受賞しました。



第14回環境報告書賞の授与式

報告書賞（主催：東洋経済新報社、グリーンリポーターズ・フォーラム）で「環境報告書賞：優良賞」を受賞しました。

\* [http://www.ricoh.co.jp/release/2010/0625\\_1.html](http://www.ricoh.co.jp/release/2010/0625_1.html)

## 環境サイトレポートの発行

### 《リコーグループ/グローバル》

リコーグループでは、地域とのつながりを重視し、行政、事業所周辺の住民、社員の家族などとのコミュニケーション手段として環境サイトレポートの発行を促進しています。2001年度には、「環境サイトレポート作成ガイドライン」\*を作成し、

グループ内で運用しています。「リコー電子デバイスカンパニー環境報告書2010」は、第14回環境報告書賞で環境報告書賞・サイトレポート賞を受賞しました。

\* <http://www.ricoh.co.jp/ecology/report/site.html>

## 環境Webサイトの公開

### 《リコー/グローバル》

リコーの環境Webサイト\*1は、製品の環境情報や最新のニュースなど、調べたい情報を誰でも簡単に探し出せるよう、「見やすさ」「わかりやすさ」「使いやすさ」にこだわって制作しています。英語版ホームページも開設しており、各国の関連会社にもリンクしています。また、環境ホームページの中では、子ども向け学習サイト「Ecotoday テンペル・タツルストーリー」\*2を公開しています。リコーが支援する世界各地の森林生態系保全活動のストーリーや、楽しみながら環境問題を学べるクイズやゲームのコンテンツがあります。

\*1 リコー環境経営Webサイト <http://www.ricoh.co.jp/ecology/>

\*2 Ecotoday テンペル・タツルストーリー

<http://www.ricoh.co.jp/ecology/ecotoday/>



## ロンドンに100%自然エネルギー広告塔を設置

### 《リコーグループ/グローバル》

リコーは、2011年6月28日、ロンドンの中心部からヒースロー空港に向かう高速道路沿いに、100%自然エネルギーで点灯する広告塔を設置しました。この広告塔は、環境経営を掲げるリコーが、自然エネルギーにこだわり企業姿勢を伝えるシンボルとして設置したもので、アメリカのニューヨーク・タイムズスクエアに2009年4月に設置した100%太陽光の広告塔に続くものです。太陽光と風力のハイブリッド発電で設計されており、広告面積は高さ3m幅12m、96枚の太陽光パネルと5基の風力発電機を備え、平均発電量は約12,612Wh/日です。発電した電気はバッテリーに蓄電できますが、天候によっては点灯しない



ロンドンの広告塔

い場合があってもやむを得ないという考えに基づいています。

### リコグローバルエコアクション2010

#### 《リコグループ/グローバル》

リコグローバルエコアクションは、国連の「世界環境デー」にあわせ、グループ社員の環境意識啓発を目的に実施しているイベントで、2006年にスタートしました。「地球環境について考え、行動する日」として、世界各地の主なリコ関連施設、広告塔の消灯や定時退社を行うほか、各事業所/部門、社員がそれぞれに趣向を凝らしたアクションを実施します。2010年も、世界各地のたくさんの社員がそれぞれにエコアクションデーを楽しみました。また、社員だけでなく、その家族や友人、また、お客様や近隣企業、行政機関などへも活動が拡がり、大きなアクションの環へと成長しています。

#### ■日本極



東京タワーのふもとで生物多様性に触れる

#### ■米州極



リコエルサルバドル  
オフィスに子どもたちを招待して  
環境啓発  
(子どもへ向けた環境活動レク  
チャーの様子)



リコラテンアメリカ  
環境を心に留めるオブジェコンテスト  
を実施  
(コンテストに参加した子ども)

#### ■欧州極



リコヨーロッパ・ロンドン本社  
テムズ河周辺の外来植物を駆除

#### ■中国極



リコチャイナ  
環境デー普及のための行政との共同イベントが定着（贈呈式の様子）

#### ■アジア・パシフィック極



リコオーストラリア  
地元サッカークラブとともにパワーサイクル

## ラグビー・トップリーグ公式戦に グリーン電力を活用

### 《リコー／日本》

2010年9月18日、ジャパン・ラグビー・トップリーグ公式戦「リコー対福岡サンニクス」(主催:(財)日本ラグビーフットボール協会、場所:秩父宮ラグビー場)において、自然エネルギーを利用した試合が開催されました。これは、リコーが購入している日本自然エネルギー株式会社提供の「グリーン電力証書」を利用することにより、本公式戦ラグビー場のオーロラビジョンやナイター照明などに使用される電力を自然エネルギーで発電するグリーン電力で賄ったとみなすというもので、この試合の使用電力量は約2,000kWh、一般家庭1世帯が約7カ月間使用する電力を賄える量に相当しました。

※ リコーブラックラムズWebサイト  
<http://www.ricoh.co.jp/rugby/news/2010-2011/info/201009.html>  
 (2010年9月14日付記事を参照ください)。

## グループ社員の住まいのエコリフォームを推進

### 《リコーリース、リコークリエイティブサービス／日本》

リコーグループでは、国内のグループ社員を対象に、金利優遇とカーボンオフセット\*1つきのローンを提供し、住宅のエコリフォームを推進しています。これは、社員が自宅のエコリフォームを行う際に、リコーリースの優遇ローンを利用できる仕組みです。対象となるのは以下の3つのいずれかに該当する太陽光発電システムの導入や断熱改修などのリフォームで、ローンの提供だけでなく、工事等の相談窓口サービスもリコークリエイティブサービス\*2が提供します。対象は①住宅用太陽光発電システムの工事をともなうもの、②エコキュート(自然冷媒ヒートポンプ式電気給湯器)またはエネファーム(家庭用電池ジェネレーションシステム)の工事をともなうもの、③環境省がエコポイント\*3の対象とするものです。さらに、ローン利用者には、5年または1年(リフォームの内容に合わせて)の自宅でのCO<sub>2</sub>発生量に見合ったカーボンオフセットクレジットが無償で提供され、社員の家庭のカーボンニュートラルを実現します。日本の住宅への太陽光発電システムの導入ははまだ0.1%にとどまり、断熱改修による住宅の省エネ性能の向上も含め、国内のエコリフォームは今後、大いに普及が望めます。リコーグループは、社員の家庭における環境負荷削減を後押しし、事業活動以外でも持続可能な社会の実現に向けて活動していきます。

\*1 日常生活や経済活動によるCO<sub>2</sub>等の温室効果ガスの排出に対し、まずできる限りの削減努力を行った上で、削減ができない温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資することなどによって埋め合わせるという考え方。2008年3月に環境省が、国内におけるオフセット・クレジットの認証制度を創設。

\*2 リコー三愛サービスが2011年4月1日にリコーエンジニアリングと統合し、社名変更。  
 ※ニュースリリース(2010年12月20日)  
[http://www.ricoh.co.jp/release/2010/1220\\_1.html](http://www.ricoh.co.jp/release/2010/1220_1.html)

\*3 環境省が付与する住宅のエコリフォームに対するポイント。対象となるリフォームは、窓や外壁・屋根などの断熱改修、太陽光発電システム、節水型トイレ、高断熱浴槽、パリアフリーなど。

## ハーバード・ビジネス・スクールの教材として、 リコーグループの環境経営が採用

### 《リコーグループ／グローバル》

米国ボストンにあるハーバード・ビジネス・スクール(HBS=経営大学院)のAdvanced Management Program(AMP)において、リコーグループの環境経営が、ケース・スタディ教材として採用されました。AMPは、世界の企業の優れた経営事例を取り上げ、週6日8週間寝食を共にしながら最新の経営学を討論形式で学ぶ集中コースで、学生たちは各国の企業の経営幹部あるいは幹部候補です。2010年にサステナビリティと経営に関する初のビジネス・ケースが取り上げられることになり、リコーが第1号に選ばれました。2009年3月にHBS上級講師のEccles博士が来日して社長、財務担当・環境担当の各役員と面談し、御殿場事業所、沼津事業所を訪問するなどの取材を実施しました。この取材に基づき作成されたビジネス・ケースにより、2010年5月18日、リコーから谷達雄社会環境本部長(当時)も参加して授業が行われました。参加した学生は世界40カ国からの140名で、事前に配布された教材を精読し、提示された検討課題について前夜に少人数のグループごとに予備討議を行ってから授業に臨んでおり、リコーグループの2050年長期環境負荷削減目標や環境経営活動に対し、鋭い洞察に満ちた意見を交わしました。「2050年の社会変化を先取りするのは企業にとって必要なこと」「環境経営が競争力向上につながることを消費者、投資家にもっと伝えるべき」など、出された意見の多くがリコーの環境経営に共感するもので、経営をよりレベルアップさせていくためのディスカッションが活発に繰り広げられました。

※ ハーバード・ビジネス・スクール(HBS)で使われている教材(英文PDF)についてHBSの授業で実際に使われているリコーのケース・スタディ教材(Eccles, Robert G., Amy C. Edmondson, Marco Iansiti and Akiko Kanno(2010), Ricoh Company, Ltd., Harvard Business School [9-610-053, February 17, 2010])は、Harvard Business Reviewのオンラインショップから\$6.95でダウンロード購入することができます。  
<http://hbr.org/product/ricoh-company-ltd/an/610053-PDF-ENG?Ntt=Ricoh>



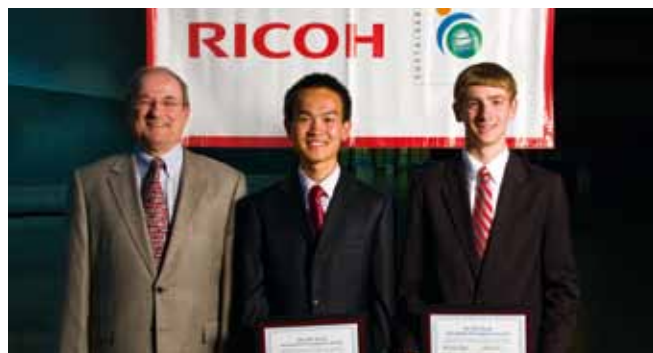
学生たちからの質問に答える谷 社会環境本部長(当時、写真中央)

### 地域とのコミュニケーション

#### 生徒、児童の環境活動を支援

##### 《リコーアメリカズコーポレーション/グローバル》

米州の販売統括会社リコーアメリカズコーポレーション(RAC)は、「ISEF (International Science & Engineering Fair)」のメジャースポンサーです。ISEFとは、世界最大級の高校生による科学コンテストで、世界65以上の国と地域の代表として、1,500人以上の生徒が参加しています。RACは2005年から7年連続で「リコー・サステナブル・デベロップメント賞」を設け、環境保全とビジネスの両立に寄与する研究に奨学金を贈っています。2010年度の表彰式は、カリフォルニア州のロサンゼルスで行われ、最優秀賞は、Yinshuo Zhangさん、Kyle Scott Saleebyさんでした。



(左から)Robert Whitehouse ( RAC 環境部門ディレクター)、Yinshuo Zhangさん、Kyle Scott Saleebyさん

#### 「バタフライ・トレイル (蝶の道)」の整備活動

##### 《リコーシンガポール、リコーアジアパシフィック/シンガポール》

2010年11月27日、リコーシンガポール (RSP) とリコーアジアパシフィック (RA) による植林が、社員と家族、さらに活動の趣旨に賛同頂いたお客様を含む 300人以上が参加して、Istana 公園で開かれました。またこの日は「バタフライ・トレイル (蝶の道)」がお披露目されました。これは、蝶の生息環境を改善するような樹木や植物などを整備する国を挙げての活動で、RSPとRAはこれに協賛し、NGOのSingapore Nature Society及び国家公園管理局 (National Parks Board) と協力して、学生や市民、さらには観光客が地元の自然を学び、美しい自然に親しむことができるような整備をIstana公園内で行って来ました。



子供たちも協力して家族で植え付け作業



「バタフライ・トレイル」の案内板を持つRA真嶋社長 (左)とRSP Lim社長

### 環境教育・啓発

全員参加の環境経営を実りあるものにするには、トップの意思表示や各部門での積極的な活動はもちろん、一人ひとりが自らの業務で環境経営を実践していける社員の育成も重要です。環境経営は企業としての活動ですが、実際は社員一人ひとりが行っている活動だからです。リコーグループには、全世界で10万人を超える社員がいます。社員の意識のもち方によって、同じ活動でも、その成果は大きく異なってきます。「地球市民」「リコーグループの社員」「環境経営推進のスペシャリスト」そして、「環境経営の実践をより広く働きかけることのできる人」として、社員が成長していくための教育・啓発活動を行っています。

#### 社員向け環境教育の実施

##### 《グローバル/リコーグループ》

リコーでは、社員の環境教育に社内LANを活用したe-ラーニング\*を実施しています。コンテンツは「地球環境保全における企業の使命」と「各部門の環境経営活動事例」で構成され、すべての社員が日々の業務の中に環境経営の視点を取り入れることができるよう、活動事例を数多く盛り込んでいます。2010年度は、これまでの「省エネルギー・温暖化」「省資源・リサイクル」「汚染予防」の3本柱の活動に加えて、「生物多様性保全」の項を設け、事業活動の中で生物多様性保全に配慮する意義や目的などを中心に改訂を行いました。さらに、リコー各部門の管理職や環境推進担当者への教育として、部門業務の中への効果的な環境視点の取り入れ方、環境経営の効果把握方法などを盛り込んだe-ラーニング中級編を設けています。 \* 海外ではCDにより実施。



e-ラーニングの画面例

